

2026年1月11日(日)： 参加者 13名



■天候雪、気温5度。今年最初の部会。開催取り止めか、朝の6時降雪状況で判断とした。当日朝気温0度。降雪無く朝日が差す天気に開催決意し出発。狩留家～白木近くになると予報通り雪が降りだし道路周辺は一気に真っ白。判断ミスかと思いつつ妙國寺へ。8時過ぎに着いたが先着6名に勇気もらう。

本日依頼受けていた柿の木2本伐倒について、まずは状況判断となり先着7名が現地へ。現地は4m近くの降雪であったが、風もなく安全作業に支障ないと判断し9時作業開始。樹高12m近くの富有柿2本、安全伐倒作業に徹するため、チルホール補助でのチェーンソー伐倒を行う。最初は恵木・佐藤・次が先月伐倒受講生の西村、指導者富田。他参加者も手際よく役割分担し作業は10時半終了。妙國寺に帰ると山本理事長他6名が薪小屋の薪棚整備と薪割機械の点検中。この雪の中、山が好きな仲間の集合に“ほっこり”とした。2年前の春に植樹した椎茸木に椎茸の芽が覗いており、全員で鹿対策のネット張りを行い作業終了。

里山部会長 佐藤 謙治

昼は妙國寺厨房にて暖を取させていただき、坊守様ご好意の味噌汁と柿の木伐採した箱崎様のおもてなしの「せんざい」を頂きながら談笑、午後1時に閉会とした。これも「森を知り・森を大切にし・森を楽しむ」活動の一環かと。今回の活動で、雪の中の伐倒・広葉落葉樹である富有柿の樹形による伐倒方法・作業スキル・ワイヤーとロープ張力の安全率など知識の必要性を考えさせられた。伐倒のメカニカルについてスキルUPを誓った活動となりました。



柿の木伐倒



妙國寺厨房にてくつろぎのひと時

2026年1月10日(土)17日(土)： 参加者計 13名

クラフト部会長 岩田 幸信



ビスの仕分け作業：鋤田さん(左)と青木さん



松ヶ原もりメイトキッズフィールドでの植物観察会



■昨年11月24日(月・祝)、大人14名、子供8名、計22名が参加。

会員のご家族やお友だちなど、初めてキッズフィールドに来られた方がたくさん参加して下さり天気にも恵まれ楽しい観察会となりました。

講師は植物に豊富な知識を持つ見勢井顧問と、原田澄さん(3班)。俱楽部員が中心の大人グループと、子どもを交えた家族のグループに分かれスタートしました。

■新年に降った雪で、鹿ヶ谷にあるベース基地までの登り坂に残雪があるかと心配しましたが、何事もなく新年最初のクラフト部会を開催。いつも通りに9時集合、お茶を飲みながら雑談及び作業内容の周知、安全確認をして作業に取り掛かりました。この日の作業は、俱楽部主催のイベント等に使う机の天板2枚の作成依頼があり檜材で作りました。ほかの作業は1月31日の「ゆうゆう横川」での見本モデルの作成と、24日大竹松ヶ原町集会所で行われた「こぶしの里」でのクラフト指導(干支の馬)の最終チェックを行いました。翌週の17日の作業は、佐々木環境教育部会長を交えて、「こぶしの里」で行われた材料の最終チェックと倉庫の棚卸しを行いました。



環研部会長 佐々木 綾子



葉の説明をする見勢井顧問(右端)

人的には美味しいと噂のコシアブラをしっかりと見ることが出来て心が躍りました。今後松が原へ伺った際、同じ植物の季節毎の姿を観察してみようと思います。』と、感想を寄せてくれました。

大人グループは、紅葉の仕組みや、大竹特産のコウゾのことなど、見勢井顧問が専門性を發揮して説明。家族チームは、観察に加えゲームや絵本の読み聞かせなど、自然とのふれ合う楽しさを狙いとしたようです。

俱楽部の会員で家族チームに参加した佐藤さんは『晩秋のひんやりと気持ちの良い空気の中で、植物に触れ、遊び、楽しませていただきました。赤や黒の木の実を発見し、こどもと共に五感を使って楽しめました。個